

令和4年8月9日
長崎市伊良林小学校
PTA 会長 福澤照充

供養の碑について

建立の経過（由来）

昭和20年当時、伊良林小学校講堂は、海軍の諫早分院の救護所となっていた。

昭和20年8月9日原爆投下を受けて以来、被爆者が続々と当校救護所に治療を乞いに詰めかけたが、治療を受けた甲斐もなく、ほとんどの人が息絶えていった。その方々は、相当数にのぼったが、原爆投下の最中どうすることもできず、運動場が仮焼き場となって、茶毘（だび）にふされた。そしてお骨は、運動場の片隅にあった防空壕に埋められた。

以来、誰とはなしに、当時を物語るように校庭に向かって合掌する姿があとを絶えなかった。

当時の状況

昭和54年6月、伊良林小学校PTA事務局へ、匿名で34年前の原爆の悲惨さを書き尽くした手紙と献金71,615円が寄せられた。

これをきっかけに、PTAも当時の状況を聞き合わせ、さっそく匿名の方の善意を無にしないように、供養の碑を建立しようと意見が一致した。

まず学校側と話し合い、全職員の同意を得たうえで、市教育委員会へこのことを申し出、校庭内に建立の許可を得た。

石碑について

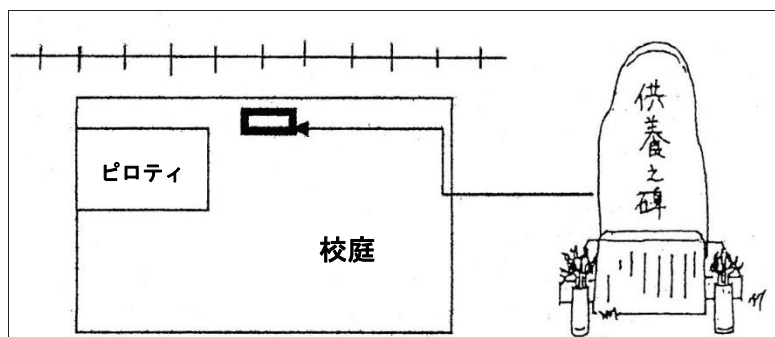
- | | |
|--------|----------------|
| 1. 名称 | 供養の碑 |
| 2. 石材 | 自然石(蛇紋石) |
| 3. 大きさ | 高さ90cm 幅50cm |
| 4. 除幕式 | 昭和54年11月14日 |
| 5. 場所 | 伊良林小学校校庭 |
| 6. 費用 | 総額 15万 |
| | 内訳 献金 71,615円 |
| | PTA負担金 58,385円 |
| | 石材店寄付 20,000円 |

建立の趣旨

- 原爆犠牲者の方々が、安らかにお眠り下さるように。
- 供養の碑が、平和克復契機となって、伊良林小学校PTAが世界平和への情熱を象徴する。
- 供養の碑を平和教育の教材として、生命と平和の尊さを求める精神を、子ども達に教える。

建立にまつわる話

- 伊良林小学校の諸行事のときには雨が降っていたが、供養の碑建立後は、知る限り、晴天に恵まれている。
- 当時の状況を知る方々から、供養の碑建立のおかげで、やっと死臭が消え去ったとの話を聞く。
- 当時、長大医大生であり、当校で荼毘（だび）にふされた方の遺族が、お骨を完全に持ち帰ることができなかつたため、毎年8月9日になると、鹿児島から訪れていたが、供養の碑建立後に、「碑を自分の息子とします」という感謝の言葉と献花料をいただいた。



- *原爆60周年を祈念して、伊良林小学校開校百周年記念事業実行委員会より「供養の碑」の台座を設置していただきました。
- *上記「供養の碑」についての説明は、PTAに保管してありました記録をおこしたものです。